九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

[051]中国文学論集表紙奥付等

https://hdl.handle.net/2324/6796447

出版情報：中国文学論集. 51, 2022-12-25. The Chinese Literature Association, Kyushu University
バージョン：
権利関係：

彙　報

○講義題目

＊印は他講座教員との共同オムニバス授業

令和四年度前期（春学期・夏学期）

基幹教育科目

文系ディシプリン科目（文学・言語学入門）　静永教授

文学部

講義　倭漢朗詠集を読む　静永教授
講義　『封神演義』の成立　岩崎助教
演習　唐詩解会読　静永教授
演習　『列国志伝』会読　岩崎助教
演習　古典文学作品研読　孫講師
演習　中国文学研究法　岩崎助教・孫講師・静永教授
中国語会話Ⅰ・中国語作文Ⅱ　孫講師
中国語（中級）Ⅲ・中国語初歩Ⅰ（佐賀大学）　中尾友香梨教授

人文科学府

演習　唐詩解注釈訓析　静永教授
演習　『列国志伝』会読　岩崎助教
演習・博士演習　中国文学研究法　岩崎助教・孫講師・静永教授
論文指導　中国語学中国文学の諸問題　静永教授

令和四年度後期（秋学期・冬学期）

文学部共通科目

人文学基礎Ⅱ　唐詩からのおくりもの　静永教授＊

文学部

講義　中国語のしくみ　静永教授
講義　『封神演義』の受容　岩崎助教
講義　詩人たちの「天気」と「別れ」の詩
―陶淵明と蘇軾を中心に―（金沢大学）　原田愛准教授
演習　唐詩解会読　静永教授
演習　『列国志伝』会読　岩崎助教
演習　古典文学作品研読　孫講師
演習　中国文学研究法　岩崎助教・孫講師・静永教授
中国語会話Ⅱ・中国語作文Ⅱ　孫講師
中国語（中級）Ⅳ・中国語初歩Ⅱ（佐賀大学）　中尾友香梨教授

人文科学府

講義　『封神演義』の受容　岩崎助教
講義　詩人たちの「天気」と「別れ」の詩
―陶淵明と蘇軾を中心に―（金沢大学）　原田愛准教授
演習　唐詩解注釈訓析　静永教授
演習　『列国志伝』会読　岩崎助教
演習・博士演習　中国文学研究法

論文指導　中国語学中国文学の諸問題　静永教授　岩崎助教・孫講師・静永教授

○学位論文

（二〇二二年三月学位取得）

青年時代の菅原道真　〔学士〕吉野　桜

張遼の描写の変遷　〔学士〕尾家季央

長屋王のうたげとその詩　〔学士〕久富茉奈

馬と中国文学　唐代以前の馬に関する作品の考察　〔学士〕岡部和哉

唐汝詢『唐詩解』を中心とする明清唐詩学研究　〔修士〕陳　禕璇

○中国文藝座談会

第三一七回（二〇二二年三月五日、ハイブリッド開催）

『編蓬集』に見える唐汝詢の交友関係　陳　禕璇

周春の『杜詩双声畳韻譜括略』について　汪　洋

唐憲宗元和年間唐代詩人雲南書寫的兩個面向　段　天姝

第三一八回（二〇二二年四月三〇日、ハイブリッド開催）

趙翼「題周松靄『雙聲疊韻譜括略』」とその杜甫受容について　汪　洋

清華大学教授銭稲孫の懐徳堂訪問　稲森雅子

唐憲宗元和年間唐代詩人雲南書寫的兩個面向Ⅱ：元白詩文中雲南書寫的不同傾向探源　段　天姝

第三一九回（二〇二二年七月十六日、ハイブリッド開催）

『盛明雑劇二集』所収「相思譜」について　岩崎華奈子

東亜同文書院の伝統的教授法『念書』について　中里見　敬

第三二〇回（二〇二二年九月二十五日、ハイブリッド開催）

明代における白居易の評価―唐汝詢『唐詩解』を中心に―　陳　禕璇

趙翼の双声畳韻対偶研究とその意義について　汪　洋

劉歆「遂初賦」について　（中国鉱業大）栗山雅央

第三二一回（二〇二二年十一月二十六日、ハイブリッド開催）

袁枚詠史詩の特徴―女性故事を中心に―　張　茜

唐汝詢と日本　静永　健

○社会連携事業

朝日カルチャーセンター九州大学文学部提携講座

「本当は教えたくない、知られざる作家・すぐれた注釈家たち」

第一回　（二〇二二年四月十六日）

盲目の注釈家唐汝詢とその唐詩選集　静永　健

第六回　（二〇二二年九月十七日）

周之標　女性の美と才へのまなざし　岩崎華奈子

中国古典文学講演会（大野城心のふるさと館）

第一回　（二〇二二年九月二十二日）

中国文学論集　第五十一号

博多の津と中国文化―金印から最後の遣唐使まで―　静永　健
（二〇二二年十月二十九日）

第二回
帰郷と客死―杜甫の最期の三峡下り―　（本学名誉教授）竹村則行
（二〇二二年十二月二日）

第四回
北京の古書店について　稲森雅子

○神奈川大学第九十一回中国人留学生史研究会
（二〇二二年二月二十六日、オンライン開催）
開戦前夜北京の日本人留学生　稲森雅子

○会員消息（事務局把握分のみ）

段　天姝　三月三十一日、九州大学特定プロジェクト教員（外国人教師）を終了、引き続き九州大学訪問研究員として滞在。八月帰国。

孫　琳浄　四月一日、三月三十一日、九州大学特定プロジェクト教員（外国人教師）に着任。

○会員近著（事務局把握分のみ）

陳　翀『両宋時期漢籍東伝日本論述稿』
（浙江人民出版社、二〇二一年十一月）

叶　言材『我与姑母叶嘉瑩』
（人民出版社、二〇二二年一月）

九州大学中国文学会編『目加田誠北平日記』中国語版
（鳳凰出版社、二〇二二年三月）

竹村　則行『楊貴妃文学史研究』電子書籍 kindle 版
（22世紀アート、二〇二二年十一月）

執筆者紹介（掲載順）

中村　昌彦　帝京平成大学人文社会学部教授
栗山　雅央　中国鉱業大学人文与芸術学院副教授
土屋　聡　岡山大学教育学域准教授
段　天姝　雲南大学文学院講師
竹村　則行　九州大学名誉教授
静永　健　九州大学人文科学研究院教授
汪　洋　九州大学人文科学府博士後期課程
陳　禕璇　九州大学人文科学府博士後期課程
張　茜　九州大学人文科学府修士課程
樊　致遠　九州大学人文科学府修士課程
李　岳陽　九州大学人文科学府修士課程
稲森　雅子　九州大学人文科学研究院専門研究員
長谷川真史　東京学芸大学人文社会科学系日本語・日本文学研究講座中国古典分野特任准教授

編集後記

ここに『中国文学論集』第五十一号をお届けします。今号が二度目の編集担当でしたが、何かと作業が遅れがちで、各方面に多くのご迷惑をおかけしました。伏してお詫びするとともに、ご執筆いただいた先生方に心より御礼申し上げます。

前号の編集後記に書いていた新型コロナウィルスは、未だ収束していないものの、世の中は社会経済活動優先の方向に舵を切っています。中国の封じ込め政策もついに緩和されました。厳しい行動制限に対する中国各都市の市民による抗議活動が報じられた直後の緩和であったことが、大変印象的でした。

今年最大の衝撃は、二〇二二年二月二十四日に始まり、現在も終わりの見えない、ロシアによるウクライナ侵攻です。これにより、ウクライナの人々が生命や生活、尊厳を蹂躙され、ロシア国民の間にも様々な分断や軋轢が生じ、世界各国の関係にも緊張が高まりました。アジアにおいても決して他人事ではありません。またスポーツや芸術の分野で、「ロシア」に属する人材や演目・題材の排除が行われたとの報道も耳にしました。

その際に危惧したのが、ロシアの言葉を学んだり、文化・文学を研究することへのネガティブな意識が広がるのではないか、ということでした。これについて日本ロシア文学会が発表した声明を、少し長いですが、以下に引用します。

> 今回のロシア軍によるウクライナ侵攻で、ロシア語やロシア文学・文化を学ぶ、あるいはこれから学ぼうとしている皆さんは心を痛めているのではないかと思います。……ウクライナに侵攻したロシア政府はおそらく今後も、ロシア語やロシア文学・文化を、「ロシア国家」の大きな要素として利用しようとするでしょう。実際、国家というものが古来、言語や文化をプロパガンダに利用し、自

分たちの道具としようとしてきたことは、歴史が示しています。しかし、ロシア語やロシア文学・文化を学ぶことは、現在、多くの国々から当然の非難を受けているロシア政府の軍事侵攻を肯定することを意味してはいません。むしろ、ロシア語で書かれた文学や思想の多くは、昔から、権力と権力が生み出す不条理に抗し、これを批判してきました。存続のために多くの資金を要する演劇やバレエ、映画や音楽などは、体制の支援を受けながらも、国家や権力の枠組に収まらない人間の喜びや笑い、悲しみや怒り、そして美を表現してきました。ロシアの言葉・文学・文化は、国家や体制の枠を越え、より広く、深く、多様です。……しかし同時に、それらはとても脆い。現在、ロシア国内で進行しているのは、剥き出しの暴力、言論統制、弾圧であり、文化人、学者、市民の自由な活動が制限されています。……ロシアという国は国際社会で孤立を深めています。そのような二重の疎外に瀕しているロシア語の話し手たち、ロシア文学・文化の担い手たちを、さらなる孤独へと追いやってはなりません。コミュニケーションの回路を保ち、彼らと対話していかなければなりません。「国家」によって急速に分断されつつあるように見える現在の世界で、その枠組を超え、互いにつながっていこうとするのは、私たち自身にとっても大切なことです。今日の状況でロシアの言葉・文学・文化を学ぶことの意味を、私たちはこのように考えています。

（日本ロシア文学会ホームページ「ロシアの言葉・文学・文化を今、あるいはこれから学ぶ皆さんへ」https://yaar.jpn.org/?p=94）

今は一日も早くこの悲惨な状況が解消され、また世界が数十年前と同じ轍を踏まぬことを祈ります。次号も皆様の投稿を心よりお待ちしております。

（岩崎　華奈子　記）